

葉粉盆といふ物有、此節おかず、

〔玉露叢 十三〕一同年寛永十六年ニ江戸大火、此時御城回祿ス、御城御普請出來シテ、御移徙ノ時、御一門

及ビ諸大名衆ヨリ献上物ノ品々、略○中

一塵壺 十

松平若狹守康信略○中

一塵壺 十

嶋津万壽丸

〔寶藏 三〕塵壺

おほくて見ぐるしからぬは、文車のふみ、塵塚のちりとは侍れども、文車にはおほからで、塵づかにのみつもれるはいかゞせん、此器も一座のちりづかなればとて、山もりならんは本意ならじ、塵や芥は拂ふこそいみじけれ、とても拂はゞ、此つぼよりはらはまほしきもの社あめれ、

塵にまぶしあくたにふれるむねの月

平生座右可隨身 一箇器財適主人 可會可看老君道 漆和光矣匣同塵

〔天保十三年物價書上〕箆籠引下ダ直段取調申上候書付

一紙屑籠 丸 三月直段廿四文之處
五月書上二十文

寅八月

拾三番組下谷金杉上町
諸色掛

名主 三左衛門